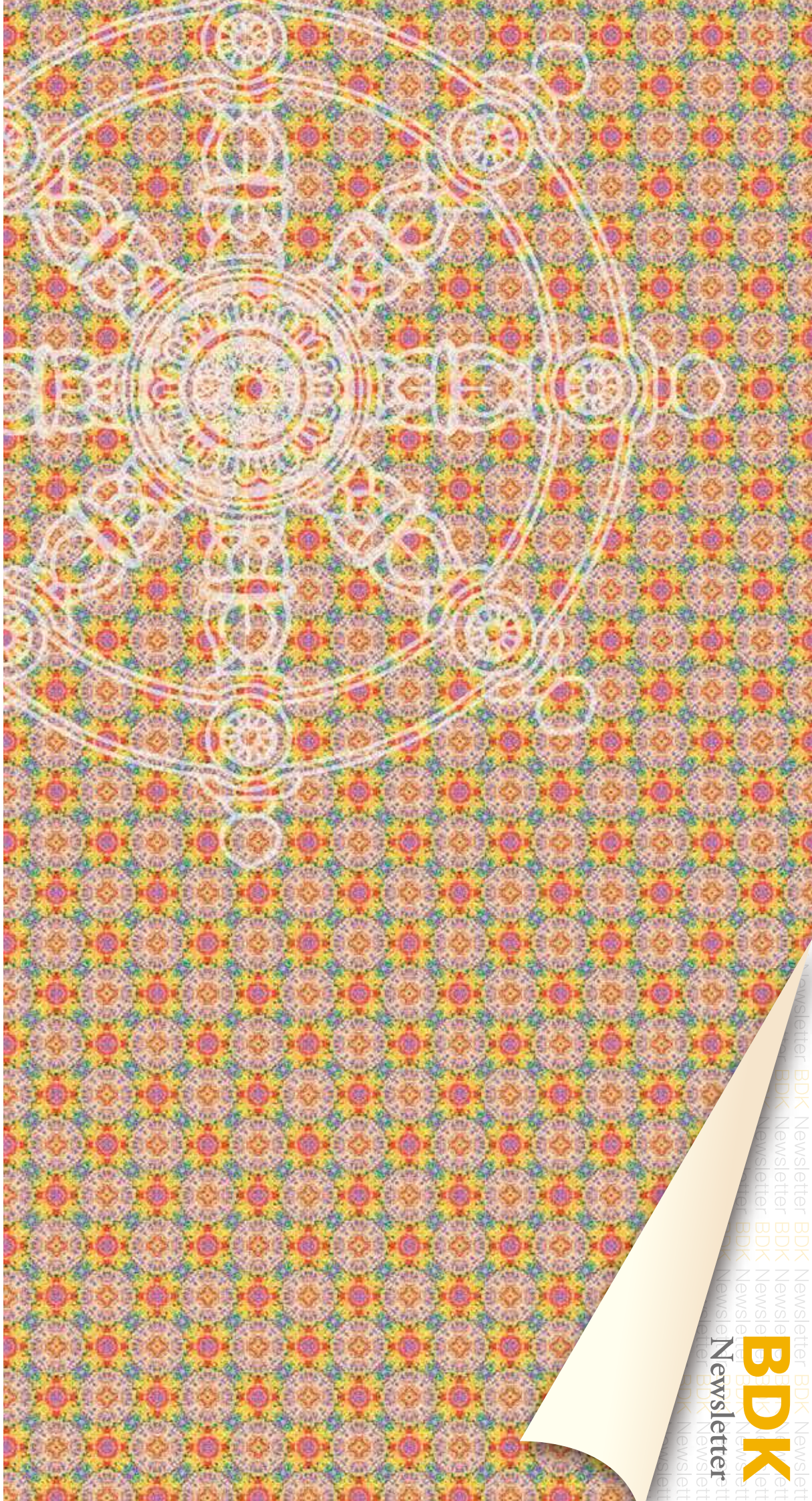


道 みち

公益財団法人 仏教伝道協会

No.02
2013



BDK
Newsletter

道みち

02

CONTENTS

- 01 ご挨拶
- 02 仏教伝道協会のおゆみ
- 04 財団法人 仏教伝道協会（2012年度の主な活動）
被災保育施設支援金
～BDK東日本大震災復興団体助成金制度の設置と交付～
出版事業のご紹介～「仏教聖典」頒布の今とその他事業
第46回仏教伝道文化賞
第42回実践布教研究会（於：比叡山延暦寺）
●特集インタビュー ～25年越しの実践布教研究会に参加して～
宮城 泰年 師（本山修験宗総本山 聖護院門跡 門主）
BDKシンポジウムの開催
BDKグローバル会議の開催
仏教伝道協会 留学生奨学金制度と今後の展望
●日本人留学生奨学金制度の新設と受給者紹介
●2012年度受給者インタビュー
何 歆歆 さん（東京大学研究員）、同 齋藤 明 教授
●受給者のその後・・・元受給者インタビュー
2011年度受給者 ザイレ 暁映 さん（法相宗 大本山 興福寺）

19 海外協力機関のご紹介

- 1) アジア圏
台湾
シンガポール
- 2) 北米圏
アメリカ
カナダ
ハワイ
メキシコ
- 3) 南米圏
ブラジル
- 4) 欧州圏
ドイツ
イギリス



各言語に翻訳された「仏教聖典」



第1期翻訳事業が続く「英訳大蔵経」

29 “ささえあって”



公益財団法人 仏教伝道協会
BUKKYO DENDO KYOKAI



公益財団法人 仏教伝道協会
会長 沼田 智秀

公益財団法人としての 新たな出発に際して

仏教伝道協会は、株式会社ミットヨの創業者沼田恵範が、み仏の教えを広く世界に弘めるために発願し、有縁の方がたのご協力により、昭和40（1965）年に設立されて以来、仏教聖典の現代語訳と外国語訳による編集、刊行とその普及を事業の柱として、多くの皆さまのご賛同、ご協力を賜り、着実にそのあゆみを進めてまいりました。

平成20（2008）年の公益法人制度改革に伴い、内閣府より移行認定を受け、平成25（2013）年4月1日から「公益財団法人仏教伝道協会」と名称を改め、より公益性と信頼性の高い団体として新たな出発をすることになりました。

この移行に伴い、財団の目的を「日本文化の基本でもある慈悲と共生の仏教精神と仏教文化とその学術振興を促進し現代的理解を弘め、グローバルな啓蒙活動を通して豊かな人間性を育て、よりよい社会を形成する」とし、さらなる活動の場を拡げていきたいと思っております。

当協会では、特定の宗派にとらわれず、仏教が持つ東洋の叡知を一人でも多く世界の人々に伝えるための活動や事業を展開し、最終的には民族や国家を超えて、人類の平和と幸福に貢献できることを願っています。

今後とも、当協会の活動にご支援、ご協力のほどを、心からお願ひ申し上げます。

合掌

仏教伝道協会の

あゆみ

Bukkyo Dendo Kyokai History



■発願者 沼田恵範師

'80s

'60s

'70s

'30s

83 82 81 80 78 77 76 75 73 72 70 67 66 65 61 34

昭和58年(1983) 昭和57年(1982) 昭和56年(1981) 昭和55年(1980) 昭和53年(1978) 昭和52年(1977) 昭和51年(1976) 昭和50年(1975) 昭和48年(1973) 昭和47年(1972) 昭和45年(1970) 昭和42年(1967) 昭和41年(1966) 昭和40年(1965) 昭和37年(1961) 昭和9年(1934)

発願者 沼田恵範師 仏教伝道のため起業を志し、マイクローメータの国産化を目指して試作・研究を重ね、三豊製作所を創業する。(現株式会社ミットヨ)

『英文仏教聖典』刊行、ホテル寄贈開始

財団法人 仏教伝道協会を設立

『日英対訳仏教聖典』刊行

第1回仏教伝道文化賞贈呈(平成24年第46回に至る)

第1回実践布教研究会開催(平成24年第42回に至る)

仏教音楽普及のためパイプオルガンを築地本願寺へ寄贈

仏教伝道センタービル竣工式

『和文仏教聖典』刊行

『和英対照仏教聖典』刊行 国内・海外ホテルに寄贈開始

『フランス語仏教聖典』刊行

(以後各国語版仏教聖典を翻訳・刊行、現在46言語に至る)

第1回パイプオルガン演奏会「東西の出合い」開催

(平成24年までに15回のコンサートや音楽祭を開催)

北米仏教伝道協会(ニュージャージー)設立

ハワイ仏教伝道協会設立

設立15周年記念式典開催

南米仏教伝道協会(サンパウロ)設立

「仏教聖典を生活に活かす会」発足

「仏教聖典を経営に活かす会」発足

『点字仏教聖典』刊行 記念贈呈式を挙げる

「大正新脩大藏經」英訳を発願

第1回英訳大藏經編集委員会開催(平成25年までに60回開催)

「沼田仏教翻訳研究センター」(米国カリフォルニア・バークレー)開設

『神道聖典』『儒教聖典』刊行

『和英対照仏教聖典』病院への寄贈開始



■沼田仏教講座 沼田恵範師 ハーバード大学との調印



■築地本願寺へ寄贈されたパイプオルガン



■仏教伝道文化賞贈呈式



■ブータンに於ける「仏教聖典」贈呈式



■「英訳大蔵経」出版記念



■マイクロメータ第1号

'00s

13	12	11	07	05	00	97	94	93	91	89	87	85	84
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

'10s

- 平成25年(2013)
- 平成24年(2012)
- 平成23年(2011)

東日本大震災復興支援として「BDK復興支援団体助成金」の交付(実施)
 「仏教聖典を初歩英語で学ぶ会」開始
 東日本大震災復興支援として「BDK被災保育施設支援金」の交付(実施)
 日本人留学生奨学金制度制定
 まんが『仏教のひみつ』刊行 約30000冊を全国の小学校、公立図書館へ寄贈
 公益財団法人仏教伝道協会に移行
 公益財団法人仏教伝道協会となる
 会長 沼田智秀就任

'90s

- 平成12年(2000)
- 平成17年(2005)
- 平成19年(2007)
- 平成9年(1997)
- 平成6年(1994)
- 平成5年(1993)
- 平成3年(1991)
- 平成元年(1989)

設立35周年記念式典開催
 設立40周年記念「伝道の集い」開催
 『手話仏教聖典DVD』刊行 全国のろう学校・聴覚障害者機関・図書館へ寄贈
 東日本大震災復興支援として「BDK復興支援団体助成金」の交付(実施)
 「仏教聖典を初歩英語で学ぶ会」開始
 東日本大震災復興支援として「BDK被災保育施設支援金」の交付(実施)
 日本人留学生奨学金制度制定
 まんが『仏教のひみつ』刊行 約30000冊を全国の小学校、公立図書館へ寄贈
 公益財団法人仏教伝道協会に移行
 公益財団法人仏教伝道協会となる
 会長 沼田智秀就任

- 昭和59年(1984)
- 昭和60年(1985)
- 昭和62年(1987)

米国カリフォルニア大学バークレー校に「沼田仏教講座」を開設
 (平成25年までに世界主要大学15校に開設)
 ヨーロッパ仏教伝道協会(ドイツ)設立
 アジア仏教伝道協会(シンガポール)設立
 『和文仏教聖典普及版』刊行
 メキシコ仏教伝道協会(メキシコ)設立
 南伝仏教伝播に関する調査研究と復興支援の開始
 設立20周年記念「聖典の集い」20年の歩み・そして・・・開催
 カナダ仏教伝道協会(オンタリオ)設立
 イギリス仏教伝道協会(ハンプシャー)設立
 台湾仏教伝道協会(台北)設立
 外国人留学生奨学金制度制定
 英訳大蔵経 初巻『撰大乘論』刊行 (平成25年までに43巻出版)
 発願者 沼田恵範師 5月5日逝去 享年97歳
 設立30周年記念式典開催



■仏教音楽祭



■実践布教研究会



■沼田仏教講座
沼田恵範師 オックスフォード大学との調印

01 Activity

東日本大震災復興事業
「BDK被災保育施設支援金」交付

東日本大震災の発生から2年が経過した現在も復興の足取りは遅く、未だ被災された多くの方がたが仮設住宅等での不便な生活を強いられています。このような現状の中、被災地域の子供たちもまた心身ともに大変厳しい環境に置かれています。

仏教伝道協会では平成23

(2011)年の「被災寺

院支援」に続き、公益社団

体 法人日本仏教保育協会の協

力を経て、平成24(201

2)年、被災した保育施設

を対象とした「BDK被災

保育施設支援金」を新たに

設けました。

本支援金は、以下(A

項・東日本大震災で施設や

設備が被災した保育施設、

B項・被災園児の受入れ、

精神的・物理的支援を過去

にした保育施設、C項・被

災園児の受入れ、精神的・



物理的支援を現在している

又はこれから被災園児支援

を行うことが確実な保育施

設) いずれかに該当する施

設を対象とし、平成23(2

011)年7月1日から8

月31日まで公募を行い、32

施設より申請がありました

た。これに対し、平成23

(2011)年9月、外部

有識者を含む「BDK被災

保育施設支援金審査委員

会」を開催し、公正に審議

した結果、総額920万円

の支援金を交付することを

決定しました。

支援させていただいた施

設より多数の御礼のお手紙

等を頂戴しましたので、一

部ではありますがご紹介さ

せていただきます。

仏教伝道協会では「BD

K被災保育施設支援金」が

少しでも被災された地域の

子供たちの心身の健康回復

と今後の豊かな人間形成の

一助となる事を願ってい

ます。

—— 震災により、小学校

入学を心待ちにしていた

年長児1名が津波に巻き

込まれ、その尊い命が奪

われました。この悲しき、

悔しき、いらだちはこの

上もありませんでした

が、亡くなった園児の分

までも前を向いて一步一

歩踏み出そうと決意し、

園児が明るい表情で園生

活を過ごせるようにと努

力してまいりました。こ

の度私共を更に力強く後

押ししていただく多大な

支援金を賜り感謝の念に

堪えません。園児たちが

毎日を元気凛然に園生活

を送れるよう、職員一丸

となつて精進してまいり

ます。(学校法人 聖和学

園聖和幼稚園 宮城県仙

台市)

—— 頂戴いたします支援

金については、破損いた

しました園舎の修復工事

代金の一部と保育設備の

充当に充てたいと思いま

す。これから職員一丸と

なつて、幼児の安全確保

について万全を期す覚悟

です。この度は有難う御

座いました。心より御礼

申し上げます。(学校法

人陸奥国分寺学園 園児

幼稚園 栃木県那須原

市)

—— 有難うございま

した。子どもたちに「手

を合わせるやさしい心」が

育まれるよう努力してま

いります。(結城明照保

育園 茨城県結城市)

—— 震災直後は壊れた箇

所や原発の影響もあるた

め、一昨年は園児の安全

を考え休園することもあ

りました。この度の温か

いご支援のお気持ちに深

く感謝し、より一層保育

を充実させて参ります。

(学校法人 すぎのこ幼稚

園 栃木県那須原市)

—— 仏教伝道協会様のお

心づかいのおかげさまで

見られる園児たちの笑顔

が一番の励みになりま

す。頂いた暖かいお気持

ちを深く心に刻み、前を

向いて歩いていこうと思

います。有難うございま

した。(学校法人 同性寺

学園 和光幼稚園 宮城

県宮城郡七ヶ浜町)

Activity 02 「仏教聖典」 2012年の頒布状況

仏教伝道協会がこれまで頒布してきた「仏教聖典」は、翻訳言語数46言語、累計発行部数800万冊以上に及んでいます。



スペイン・マドリッド大学（フリエト教授）

日本国内では、以前より行ってきたホテル・病院への「仏教聖典」寄贈に加え、新たに仏教系教育機関等への寄贈活動を開始しました。生徒・保護者の方々が授業・記念行事等をきっかけに「仏教聖典」にふれる事で、仏教をより身近に感じていただくことを願っています。本年は四天王寺中・高等学校（和宗）、淑徳学園（浄土宗）、芝中・高等学校（浄土宗）、平安中・高等学校（浄土真宗）、立正高校（日蓮宗）他55校

Activity 03 英訳大蔵経のデジタル公開

英訳大蔵経事業の一環として、平成24（2012）年9月より大正新脩大蔵経テキストデータベース（通称・SAT）上にて大正新脩大蔵経のデータと英訳大蔵経テキストデータの対訳



被災者追悼法要（石巻市仮設住宅にて）

にて22536冊を活用していただきました。また引き続き各地で営まれる東日本震災の被災者追悼法要

公開を進めています。さらに平成25（2013）年4月より、SATの検索機能を利用した英訳大蔵経のデジタルデータ検索が可能となりました。仏教伝道協会のホームページからもご

〈2012年の「仏教聖典」頒布状況〉1月～12月

	件数	寄贈冊数	販売冊数	
国内	ホテル（新規）	28	2,866	
	ホテル（補充）	118	11,947	
	病院（新規）	4	225	
	病院（補充）	9	310	
	学校（販売）	24		11,178
	学校（寄贈）	55	22,536	
	寺院（販売）			4,893
	被災寺院寄贈		582	
	一般他販売			775
	書店寄贈		6,923	2,083
国内頒布数計		45,389	18,929	
海外	海外協力機関		57,220	
	ホテル	12	1,000	
	その他	102	2,178	
	海外頒布数計		60,398	0
総計		105,787	18,929	

への参加者にも無償で配布しています。海外では協力機関の他に、スペイン・マドリッド大学、ネパール・トラディ

ショナルブッディストアソシエーションをはじめその他各国への寄贈などを含め約60000冊を頒布しています。



公式サイトより

04 Activity

『仏教のひみつ』 発刊

（佛学研とタイアップし、児童書として定評のある学習まんが『ひみつシリーズ』『仏教のひみつ』を刊行いたしました。小学校5年生の女の子葉月が、愛犬の死を通じて仏教の教えに触れ、今まで気づけなかった

自己や周りとのあり方に目覚めながら、悲しみを乗り越えてゆくという話で、仏教の基本的な教えや仏教用語も学べる内容になっています。仏教伝道協会では本書を全国約23500の小学校、3000の公立図書

館へ寄贈しました。また、寺院での日曜学校・ご講話にお使いいただけるよう、今後普及版（並製本）の刊行も予定しています。

05 Activity

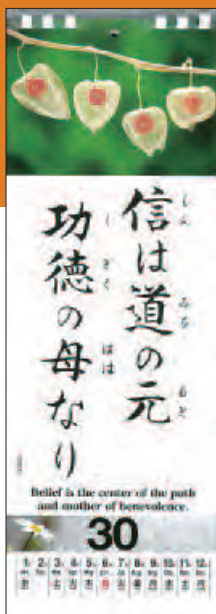
『一日一訓カレンダー』 『みちしるべ』『正見』 発刊

毎年ご好評いただいております「一日一訓カレンダー」とその解説書「みちしるべ」の新シリーズ「八正道」の刊行を平成25（2013）年より開始しました。

一日一訓カレンダー「正見」は、仏典やことわざからの名言と美しい写真の味わいはそのままに、体裁を改めリング式の留め具を採用し、より使いやすいとなりました。また文言の英文訳を大きく表示、文言の典拠も

付記しております。

『みちしるべ』『正見』『正しい見方』は、みちしるべシリーズ初の女性執筆者、愛知専門尼僧堂堂長の青山俊董師の手によるカレンダーの解説書です。長年尼僧の指導に尽力されている自らの体験や茶道の心を通して、31の文言に心に響くお話をつけていただきました。より多くの方がたのお手元に届く事を願っています。



第46回 仏教伝道文化賞 文化賞概要と受賞者の紹介

仏教伝道文化賞／沼田奨励賞

平成24（2012）年度より、従来の仏教伝道文化賞A項、B項、C項・功労賞の区分をなくし、長年に亘って仏教伝道文化に貢献のあった方または団体に「仏教伝道文化賞」を、また「仏教伝道文化賞 沼田奨励賞」を新設し、今後の仏教伝道を通じた文化活動の振興が、大いに期待できる方または団体に同賞を贈呈することとなりました。

第46回 仏教伝道文化賞受賞者

（平成24年／2012年）

平成24（2012）年10月12日（金）午前11時より仏教伝道センタービル（東京都港区）にて贈呈式ならびに祝賀披露宴が執り行われました。



仏教伝道文化賞
沼田奨励賞

玄侑 宗久 氏

昭和31（1956）年福島県生まれ。芥川賞作家として知られており、多くの著作や講演で仏教の伝道に努めている。また東日本大震災後、地元の仏教者として復興に尽力している。



仏教伝道文化賞
沼田奨励賞

白館 戒雲 氏

〔ツルティム・ケサン・カンカル〕

昭和17（1942）年西チベット生まれ。日本に帰化してからは主に、大谷大学でチベットの仏教や文化を伝えることに努め、若手研究者を育てる。また日本で学んだ近代仏教学の成果をインドや中国の仏教界に伝えている。



仏教伝道文化賞

西來 武治 氏

大正13（1924）年北海道生まれ。電話カウンセリングの草分け的な存在で、40年間におよそ19万件もの電話相談を受け、多くの人々に精神面や健康面での相談に応える。医事評論、教育面でも活躍する。



第42回実践布教研究会（於比叡山延暦寺）

25年越しの実践布教研究会に参加して

宮城 泰年 師（本山修験宗総本山 聖護院門跡 門主）

特集 インタビュー Interview

天台宗総本山比叡山延暦寺居士林道場にて実践布教研究会「平成24（2012）年5月30日～6月1日」が開催されました。全国各地よりお集まりいただいた各宗派の僧侶、寺族の方がた約60名の参加者が2泊3日の研修を行いました。開催期間中、日中は諸堂参拝や止観体験、諸先生方による講義、夜は遅くまでテーマに沿って研鑽を深め、最終日には早朝1時からの回峯行の体験など充実した研究会となりました。

◎聞き手・撮影 公益財団法人 仏教伝道協会 江口 郁
◎場所 本山修験宗総本山 聖護院門跡

第42回を教える本研究会は昭和45（1970）年に仏教伝道協会の発願者である沼田惠範師所有の山荘（栃木県那須町）での研修会を始まりとして、その後徐々に規模を拡大しつつ毎年欠かさず開催されて参りました。過去の日本仏教の祖師がたが歩まれた道を、現代に生きる僧侶等が自ら体験することによって、聞、思、修一体となった仏道を体験していただきたい、という願いから出発したものが実践布教研究会です。様々な試みを通じて日本文化の根本と言われる仏教のあり方を考え、や

がてそれぞれの地域へもどつて、それらを各自が具体的な形で伝え弘めていただくことが本研究会の目的です。

今回の開催までには2200名の僧侶、寺族の方がたにご参加いただき、各宗派の本山などで開催させていただくにあたりその全面的なご協力を得て当協会では研究会の開催・運営に務めております。本誌では今回特別にご参加いただいた聖護院門跡 宮城泰年門主にご自身の実践布教研究会への思いと今後への期待をお伺いしました。

——まず今回の第42回実践布教研究会は先生にとって25年越しの参加だと伺っておりますが、どのような経緯でご参加いただくことになったのですか。

その25年前ですが、申し込んでも開催日程が大法会と我が宗の宗会の前であつて、行きたいという思いを持ちながら行けなかつたのがずっと心残りになつていたので。

実践布教研究会、比叡山、しかも回峯行がなされるというのは修験の私にとっては是非経験したかつた。山岳信仰の中で比叡山の山岳信仰と修験の山岳信



う入って寝泊りして、隣の方と同じように居れる、それが私はいえと思うな。

——そして分科会の後は研究会の目玉である「回峯行体験」にご参加いただいたわけですがいかがでしたか。

期待て言うたら随分期待して、回峯行があるから参加したというところですからね。(しばらく間をおいて)随分学びましたね。

まず修験の山駆けと回峯行とは大変違う。よく報道記者さんが書いていたら、回峯行では飛ぶように歩いていくという表現があるけれども、まさにそのとおりだな、と思いつながら最初はついていきました。速い。我々の奥

駈修行は悪路で行場を経ながら2日、3日、4日、と歩き、しかも上がったり下がったりしながらだんだん高いところにながっていくので四つん這いにならねばならぬところもありますから、飛んで歩けるような地形が少ないのでこの速さで大峰山を一日歩いたら潰れてしまうなど正直思いました。それほど速かったです。まあしかし、その日の(朝1時に出発して)8時ごろには降りついているのだから、そ

れはこの速さで良いんだろうと思いましたが最後の急勾配にさしかかったところで足を痛めましたね。その少し前はなんの苦もなしに行つて朝ごはんにパンをいただいて。あの朝ご飯は良いお接待やなあと思えました。

飲み物も用意していただいてパンものどを通りやすい(途中の滋賀院門跡での朝食風景をふりかえる)人間は疲れてくると米の飯よりお菓子的な物のほうが入りやすいんですよ。そこまでは良かったんだが、それから後の登りで足が重くなってに気づきました。そして途中どの辺だったか足が攣りはじめて、所謂こむらがえりの状況ですね、これは危ないなあと思いました。そしてその後すぐに他の人から



遅れははじめました。遅れて立ち止まって足の手入れをするっていう暇のないままに歩いているから段々痛みが激しくなつてきて、途中でリタイアというのが頭によぎりましたが、それはいくら何でも残念でしたしね。

その時にほつと後ろから丁度腰のあたりに手を添えてくれた参加者の方だったのか、その人が腰のあたりに手を当てて、けして力を入れてぐーと押すのじゃないんだな。ほんとうに僅かに力がかかっているという感じで私の歩調に合わせてゆつくりと力をかけてくれるんやけど、とても精神的に楽になつたのかな、足の運びがそれで少し回復した。もちろん足が攣つたのが治るわけではないけれど辛い思いをせずにそれで足が前にでたね。あれは私達が今まで経験したことのないサポートですな。

というのは私達でも行中に足を攣らず時もあるんですよ、長丁場ですから。そういう人が出たときは必ず立ち止まります。そしてすぐ適当な処置をします。それでもまだ足が攣つて遅れてくるとですね、本当に弱つた人は両側から肩を支えるようにして連れて行くこともある

仰は当然あり方がちがいますから、経験したいという思いをずっと持っていたので参加させていただきました。嬉しかったですよ。加えて妻と一緒に参加できるとあつて尚更力を得たんですよ。妻は実践布教研究会で女性だけの初めての比叡山、回峯行を企画した立案者であつたという事実。「昭和53(1978)年に開催され、当時画期的な事から話題となり、毎日新聞記者佐藤健氏によって2週間にわたつて特集掲載された」当然女性だから男性だからというものはないんだけど、そういう新たな道をつけられた実践布教研究会の実績は素晴らしいと思う。その中で今回私も参加できたことは長い歴史の中でその一点にいい出来たと、とても嬉しかったですね。

しかし実践布教研究会というのは大体若い方が多いのではないかと、私は門跡の門主という立場もあり、参加するのはまずあり得ない事でした。でもその日に私が皆さんの分科会(参加者同士が幾つかの班に分かれ一つのテーマに沿つて研鑽する場)に入つても皆さんと同じ視線で話をしたり聞くことができましたね。やはり実践布教研究会に参加するのはどんな立場の人であつても、皆同じというところで参加すべきですが、肩書きが先に出てしまうと、えっ?という目でみるでしょ。それはいかんなど。肩書きとか性別、年齢そんなものは全部忘れて参加するべきと思うしね。だから私なんの不自然もなしにすつと入れたのが良かったですね。みんなと同じ部屋にぎゅうぎゅう

し、前に立つ人から引き上げてもらうような格好で進めるとかね。しかし後ろから押すというのはあまりやらなかつたんです。それが後ろから押される、しかも片手で優しく、あれは私達のいつものサポートとはまた違うけれどなかなか良いもんだなあって感じましたね。

あれはなんだろうなあ・・・
今までは人を助けることがあっても自分が助けられるって事はなくて、押ししてくれる手もかけてくれる声も優しく、強だけの自分ではわからなかつたこと、人はそうして人に助けられるという経験をすることによってまた目が開くんですよね。ですから、どのようにしたらその人に対して力が及ぶのか、力を及ぼすことができるのか、それは非常に学ぶことがあったなと思いますね。確かに今までひとに助けられるということはなかった。私が弱く助けられて、なるほど助けられる人の気持ちが出ていうものを感じることが出来たんですね。だから弱いものの立場も知らなければ人は本当に強くなれないと思いますね。



第42回実践布教研究会（於：比叡山延暦寺）開催風景

年齢も性別も超えて、いろいろな立場の人が集る 仏教伝道協会だからこそ出来ることでしょうね



みやぎ・たいねん

京都聖護院門跡第52世門主。昭和6(1931)年、京都市生まれ。龍谷大学文学部卒業。新聞記者を経て、25歳で聖護院に勤務。執事長、宗務総長などを歴任し、平成19(2007)年、聖護院門跡第52世門主に就任。熱心な反戦平和活動でも知られ、日本宗教者平和協議会代表委員、龍谷大学客員教授、京都仏教会常務理事も務める。共著書、監修書多数。講談社より『動じない心「曇り」を磨き、「心」を鍛える、「山伏」力』が絶賛発売中(本体1,500円)。

「なるほど。ではこのように様々なことが起きる実践布教研究会ですが、このような取り組みをどのように思われますか。」

まず今までに42回も開催されているということは実にすごいことだと思ふな。宗派の中になると自分の宗派に固まりがちになりやすい。確かに自分の宗派に自信を持たなければならぬ、誇りを持たなければならぬ、しかし、そうするとややもすると、我が宗はつという意識が強くなってくる。しかし他宗を見ると色々な人達と出会う、元をずーと辿っていくとお釈迦様に出会いますね。だから一つのテーマに沿って、勉強し合う

「ではこの実践布教研究会を含め今後の仏教伝道協会の活動へ何を期待されますか。」

あっちこつちに旅をしましてというのには素晴らしいことだと思ふ。他を受け容れる世界がそこにあるんじゃないかと。宗派を超えて男女も関係なく、年齢層も広く、色々な立場を超えた人が集って良いことだなと。どうもすると自分の宗派だけに固まりがち、日本には色々な宗派があるけれども、これは伝道協会だからこそ出来ることでこの宗派が当番になってやってもそれは同じようには出来ないでしょうね。

「お経」のことは『ブツダのおね、日本だけじゃなくて、そうした旅の先々で茜色の本が置いてある。「仏教聖典」(仏教伝道協会発行)が置いてある。すごいこつちやなつて私は思います。しかもそれがそれぞれの言葉でね。旅先でちよつと嬉しくなりませぬ。最近では『ブツダのおね、日本だけじゃなくて、そうした旅の先々で茜色の本が置いてある。「仏教聖典」(仏教伝道協会発行)が置いてある。すごいこつちやなつて私は思います。しかもそれがそれぞれの言葉でね。旅先でちよつと嬉しくなりませぬ。最近では『ブツダのお



宮城門主と沼田会長(居士林前にて)

道協会発行)をどちらにもお配りくださいと沢山頂戴して、そういういた布教伝道があつて我々の世界ではなかなか出来ないことをしていただき又それをこれからも継続されるということが素晴らしい事だと思ひます。当然、実践布教研究会については今まで続いた42回をベースにしてずっと続けられるべきものであろうと思ふが、それをさらに発展させて、もし言語の障害がなければ日本に留学している仏教に関心のある(主に宗門校に留学しているような)各国の学生が参加して何か一つのテーマで寄り集まつたらなあと。自分に振り返ってみると世間が狭いと思うことが多いんですよ。うちの宗派は他の宗派との交流が少ないなと。これは我が宗に限ったことではないと思ひますが、他の方もそのようであるなら各宗派の交流の場という

ものを仏教伝道協会の超宗派という立場から声をかけてくださると参加しやすいなあと思ひます。知人の僧侶が「私達は仏教宗〇〇派とあらねばならない」ということをしきりに言つていました、住んでいる部屋がちがうだけで皆同じお釈迦様の家に住んでいるんだと、そういう気持ちが大切だと思ふ。そういう一つ屋根の下で生活している時にご飯だよと声をかけるのは伝道協会ではなくては出来ないことだと。今日日本でそういうことが出来る組織つていうのはあまりないと思ふね。仏教という名の教えのもとに年齢も性別も超えて、いろいろな立場の人が集るといふようなのは他ではちよつと出来ないだろうなと。これは伝道協会の大きな力であり使命だと思ひます。

* * *

平成25(2013)年度第43回は日蓮宗総本山身延山久遠寺での開催を予定しております。当研究会へのお問い合わせは公益財団法人 仏教伝道協会 内 実践布教研究会 開催事務局 までお願い致します。(※研究会へのご参加は僧籍をお持ちの方、寺族の方のみとさせていただきます)

「BDKシンポジウム」開催

～問われる仏教 応える仏教～

Symposium

平成24（2012）年9月3日、仏教伝道協会は「BDKシンポジウム
～問われる仏教 応える仏教～」を開催しました。



●パネリスト紹介



釈 徹宗 (しゃく てっしゅう)

昭和36（1961）年、大阪府生まれ。龍谷大学大学院、大阪府立大学大学院博士課程修了。学術博士。相愛大学人文学部教授。日本仏教学会理事。浄土真宗本願寺派如来寺住職。NPO法人リライフ代表。お寺の裏にある一軒家で地域の認知症高齢者のためにグループホームを運営するなど、多彩な活動を展開する。著書は『宗教聖典を乱読する』（朝日新聞出版社）、『不干斎ハビアン』（新潮選書）、『法然親鸞一遍』（新潮新書）など多数。



阿 純章 (おか じゅんしょう)

昭和44（1969）年、東京都生まれ。天台宗円融寺副住職、円融寺幼稚園園長、専修大学非常勤講師。平成4（1992）年、早稲田大学文学部東洋哲学専修卒業。平成10（2003）年、同大学大学院博士課程退学。お寺では誰でも気軽に集える坐禅会をはじめ、各種セミナー、ライブ、演劇、婚活イベントなど、多岐にわたるイベントを開催し、子どもから大人まで仏教に親しめる社会に開かれたお寺の活動をすすめている。



池口龍法 (いけぐち りゅうほう)

昭和55（1980）年、兵庫県生まれ。浄土宗総本山知恩院職員。浄土宗龍岸寺副住職。京都大学卒業。同大学院中退後、平成17（2005）年から知恩院に奉職。平成21（2009）年に超宗派の若手僧侶を中心に「フリースタイルな僧侶たち」を発足させ、代表に就任。「フリースタイルな僧侶たちのフリーマガジン」（年6回）を発行するほか、仏教と気軽に出会うための「縁」を柔軟な発想で創り出す取り組みは、各種メディアでも高く評価されている。



松山大耕 (まつやま だいこう)

昭和53（1978）年、京都府生まれ。東京大学大学院農学生命科学科修了。農学修士。平成18（2006）年より退蔵院副住職に就任。平成20（2008）年には退蔵院にてG8サミットシェルパ会議のエクスカッションを受け入れ、外国人記者クラブや各国大使館で多数講演を行うなど、日本文化の発信・交流が高く評価され、平成21（2009）年5月、政府観光庁Yokoso! Japan大使、平成23（2011）年より京都市「京都おもてなし大使」に任命される。

近年「直葬」に代表される仏教離れや自殺・貧困が社会問題化している現代において仏教の役割とその可能性が問われる中、現在各メディアでも注目されている4名の若手僧侶をパネリストに迎え、現代仏教の役割を探りました。

まずパネリストには今回のテーマである「問われる仏教 応える仏教」を自身に問い、それぞれ発表していただいた後、現代社会における仏教の役割とその可能性について議論していただきました。パネリストからは「仏教は求められている、人々のニーズにいかに向きあっているか、僧侶の資質や対話能力が問われている」などの意見が出され、シンポジウム終了後、120名を超える出席者か

らは「もつと聞きたかった」という声が多く聞かれました。仏教伝道協会では今後も様々なシンポジウムを企画し、より多くの皆さまへ現代における仏教の役割やその可能性等の問題提起ができればと検討しています。（※「BDKシンポジウム」は当協会HP内BDK動画配信より視聴可能です）

「BDKグローバル会議」開催

M

Meeting

平成24（2012）年10月25日、26日の2日間に亘って仏教伝道協会と同じく「仏教精神と仏教文化とその学術振興」を目指して活動する海外協力機関（BDKアメリカ、BDKハワイ、BDKカナダ、BDKメキシコ、BDKヨーロッパ、BDKイギリス）の代表者が一同に会し、第2回目となる「BDKグローバル会議」が開催されました。



グローバル会議会場内



グローバル会議参加者と浅草寺にて



海外協力機関代表者と共に

本 会議では、文化・人種・宗教観がそれぞれ異なる国々で展開されている活動について発表がなされ、現地の需要に合った活動展開の成功例をもとに、「仏教聖典」の頒布活動、沼田仏教講座の運営など、今後どのようにして仏教伝道協会と協力し合い共に活動を展開できるかが話し合われました。

2日間の会議を通し、従来の活動だけに留まらず、今社会が何を求めているのか、又その需要にどのように対応していくのが問われているという事実を再確認しました。

仏教伝道協会では、今後も海外協力機関との連携を深め互いの活動をより活性化させていきたいと考えています。



「日本人留学生奨学金制度」設置 第1回受給者決定

仏教伝道協会は、平成3（1991）年の「外国人留学生奨学金制度」設置以来、海外から来日し仏教学研究をする研究者・学生を支援してまいりました。この度外国籍の方がただけでなく、日本から海外に渡り国際的な視野を養い、将来の仏教

学術振興に貢献しうる日本人の若手研究者を育成したいという願いから、平成24（2012）年7月に「日本人留学生奨学金制度」を新設しました。

第1回は平成24（2012）年7月から約4ヶ月間募集、審査委員会による厳正な審議の結果、平成25（2013）年度B DK日本人奨学生として下記3名（五十音順に記載）が選出されました。（※支給内容の詳細、第2回以降の募集要項等につきましては仏教伝道協会HPをご覧ください）

「外国人留学生

奨学金制度」のご紹介

「外国人留学生奨学金制度」は、海外から来日し仏教研究をする外国籍の学者、研究者または学生に対して、それぞれが自国に戻り、日本で学んだ仏教精神、文化等を学問を通じ、弘く世界に伝えていただきたいとの願いから平成3（1991）年に設立されました。毎年開催される奨学金審査委員会は平成24（2012）年度までに第22回を教え、のべ60名の素晴らしい

人材を選出して参りました。元受給者の多くは現在、世界各国にて仏教学界の第一線で活躍されています。

今年度より「公益財団法人」として新たな一歩を踏み出した当協会の重要な事業のひとつである奨学金制度に焦点を当て、今回は受給者の現況に加え元受給者のその後にも触れ新たな一面をご紹介させていただきます。



■井内 真帆

現在所属機関／日本学術振興会特別研究員Ph.D.
(神戸市外国語大学)

予定所属機関／ハーバード大学南アジア学科
研究内容／11世紀から13世紀のチベット仏教史
——特に初期カダム派史について

■生野 昌範

現在所属機関／大阪大学文学研究科助教
予定所属機関／ミュンヘン大学インド学・チベット学研究室
研究内容／Vinayavibhaṅgaの
新出サンスクリット語写本断簡に関する研究

■松原 正樹

現在所属機関／カリフォルニア大学バークレー校
予定所属機関／スタンフォード大学仏教学研究
研究内容／「創られた伝統」としての白隠禅
——日本近現代における記憶・
アイデンティティ・インヴェンション

何歓歓(フ・ファンファン)氏への質問

——まずはBDK Fellowshipへ応募したきっかけは何ですか？また採用が決まった時のお気持ちを聞かせ下さい。

2009年北京大学在籍中に来日し東京大学で勉強させていただいた際にインド哲学仏教学研究室の掲示板にあった2010年度のBDK Fellowshipの募集広告が目にとまりました。その時から将来はぜひ応募したいと考えていました。私は平成23(2011)年に北京大学で博士号を取得し、現在は中国社会科学院に在籍していますが、当時の素晴らしい経験を思い出し、是非またこの奨学金を得て日本で研究を進めたいと考えました。

そして採用の連絡をいただいた時は正直とても驚きましたが本当に嬉しかったです。その時のことは今でも鮮明に憶えています。たしか出勤する前にいつものようにEメールを確認していたところBDKからのメールがあったのです。そこに2012年度の奨学生として採用されたとあり、はじめは信じられませんでした。とにかく、ただ

ただ嬉しかったのを覚えてい

平成24(2012)年度受給者インタビュー

平成24(2012)年度の採用は2名。今回はそのうちの1名、東京大学大学院にて研究員として在籍中の何歓歓(フ・ファンファン)氏とその指導教授である同大文学部・大学院人文社会系研究科教授の斎藤明先生にお話を伺いました。

◎聞き手・撮影=公益財団法人 仏教伝道協会 江口 郁
◎場所=東京大学 本郷キャンパス

——では現在の研究テーマとその内容を教えて下さい。又こちらのテーマを選ばれた理由をお聞かせ下さい。

私の現在の研究テーマは「バーヴィヴェーカ(清弁)作『観心論』および注釈『論理の炎』内の第8「ミーマンサー派の真実説に対する批判的確定」章の研究」です。現在、サンスタリット語テキスト(一部を写本によって訂正)とチベット語訳校訂本を対照させた独自のテキストを作成した上で、この章を中国語と英語に翻訳しています。また、この対照テキストを大学院の演習の教材としても採用していただき、斎藤教授ならびに院生の皆さんと共に読みすすめているところです。私は博士論文でバーヴィヴェーカがどのようにサーンキヤ派、ヴァイシェーカ派、およびヴェーダリント派を批判しているかについて考察しました。現在はそれを踏まえながら、さらに第9章における初期ミーマンサー派に対するバーヴィヴェーカの批判内容の分析をすすめています。これによって、中観派の思想研究と初期のインド哲学研究の進展に少しでも貢献できればと思っています。そして研究の傍ら、



博士論文を中国社会科学出版社より2冊の本にして出版する作業を並行してすすめています。東京大学の蔵書は本当に素晴らしい、斎藤教授の献身的な指導にも助けられながら、着実にその作業を行っているところです。

——BDK Fellowshipを受給して良かったと思われる点、又その理由もお聞かせ下さい。

BDK Fellowshipを受給することができ、本当に貴重な経験をさせていただいていると思っております。ここ、東京大学で、素晴らしい教授陣他に囲まれ何の心配もなく研究に打ち込めること、これが一番の幸せです。他の奨学金ですと受給期間中に

さまざまな義務を課せられることが多く、かえって負担になることもあるのですがBDK Fellowshipにはその制約がなく、とにかく1年間研究に没頭できる環境を与えていただき、ただただ感謝しています。

——BDK Fellowship受給後の展望をお聞かせ下さい。

受給期間終了後は中国に帰国する予定です。日本での研究成果を本にまとめた上で今後さらなるインド哲学研究、例えば『ヴァーシェーシカ・ストラ』のチャンドラーナダ註等の訳注研究と考察をすすめたいと考えています。この研究計画は中国政府からの助成をうけ2014年末頃までに完結する予定です。



す。そして将来的には、米国へ
渡り、しっかりと語学を習得しな
がら、さらに飛躍できるように
したいと願っています。

斎藤明先生への質問

——ファンファンさんとの最初
の出会いが平成19（2007）
年頃と伺っておりますのでその
頃から約4年が過ぎたわけです
が、これまでの彼女の研究につ
いて、また今後更なる成果を期
待されていると思いますがどの
ようにお考えでしょうか。

ファンファンさんの研究成果
は率直に大変貢献度の高いもの
だと思えます。博士論文につな
げた研究テーマというのは中観
学派を名実共に確立した「バー
ヴィヴェーカ作の『中観心論』
とその注釈の研究」なのですが、
とくに彼女が扱ったところはバ
ーヴィヴェーカがインド哲学諸
派の学説を批判する、後半の第
6章以降でした。これまでの研

究では仏教、とくに中観学派の
教理や、仏教内部の論争につい
て扱っている前半の5章までの
研究が比較的多かったのです。
これに対して初期のインド哲学
諸派の思想を扱う第6章以降に
ついては、近年公にされた『中
観心論』のサンスクリット語写
本の影印版を用いて校訂テキス
トを修正しながら、チベット語
訳のみで伝わる注釈『論理の炎』
とともに読みすすめる必要があ
ります。それだけにかんがりの語
学力とともに、中観思想の基礎
知識にくわえ、初期のインド哲
学諸派の学説に関する知識が求
められるという点で大変にむず
かしく、これまで研究は比較的
乏しかったのが実状でした。

中国においても仏教研究、
とくに中国仏教研究には長い
歴史がありますが、インド学、
インド哲学、インド仏教学の
研究というのはまだまだこれ
から期待されるところが大き
いわけです。そういった中で、
ファンファンさんには今後この
分野をリードする研究者の一人
に育ってほしいですし、またき
つとそうなるであろうと期待し
ています。

——そのような成果を上げられ
ておられるファンファンさんで
すが協会の奨学金制度自体に
ついてはどのような点が良いと
お考えになりますか。

この奨学金は現在22年目、平
成3（1991）年からと伺っ
ていますけれども、その間に既
に60人近い奨学生をサポートさ
れてきたと聞きました。本当に
貴重な貢献であると思っていま
す。私がこれまでに直接指導を
担当した中国からの留学生につ
いても、彼女を含め2名がこの
BDK Fellowshipに採択され、
留学することができました。日
本への留学希望者は多いので
が生活費が高いために、とくに
若手の場合には奨学金の提供を
受けるというのは大変にありが

たいものと思います。そのよう
な思いを決して忘れることな
く、BDK Fellowshipを受けた
留学生には、それぞれの母国に
戻り、仏教研究を牽引する人材
に育って、国際的な舞台で大い
に活躍することを期待していま
す。そのような意味で、これか
らもぜひBDK Fellowshipをと
おして、将来有望な若手研究者
をサポートしていただきたいと
思っています。

——最後に斎藤先生から今後応
募を検討されている学生、研究
者に向けアドバイスをお願い致
します。

これは私事になりますが、私
もかつて博士課程在籍中に学生
結婚をし、3年間キャンベラに
あるオーストラリア国立大学か
ら奨学金を受け、ドウ・ヨング
先生の下で研究を続ける機会を
得ました。その間に子供2人も
当地で生まれました。貧乏学生

だっただけに、それ以来、ド
ウ・ヨング先生に対してはもと
より、オーストラリアには足を
向けては寝られないというほど
に恩義を感じてきました。その
後何らかの形で報いたいという
思いから同大学の後輩の学位論
文の審査委員を引き受けたり、
関係者のお世話をしたりと、少
しはお返ししたつもりですが、
いまだ当時受けた多大な恩には
報いきれていないと感じていま
す。BDK Fellowshipを受けて
来日し滞在できるのは1年間で
すが、自分自身の研究の進展と
ともに、日本での留学生活その
ものが貴重な体験になるのは間
違いないと思います。この奨学
金の恩恵を決して忘れることな
く、ぜひ日本での留学生活を実
に研鑽を積み将来にわたって日
本との学術交流を進めていつて
いただきたいと願っています。



——まずはBDK Fellowshipへ応募した経緯と受給当時の研究テーマ並びにその内容を教えてください。

またBDK Fellowshipを受給して良かったと思われる点とその理由もお聞かせ下さい。

平成22(2010)年秋、博士論文に必要な研究のために来日し、最初の1年間は別の奨学金をいただいたのですが、私の研究テーマである「日本中世唯識思想の展開—法相論議における「五姓各別」の解釈を中心として」は大変時間のかかる内容ですので、もう1年日本に滞在したいと思ふBDK Fellowshipに応募しました。

初めて日本仏教思想についての博士論文を書きたいと思ったときに、まず指導教官に相談しました。なるべく未だ研究されていないようなことをやりたい、そして思想史を研究したいと思っていたところ、禅宗の思想以外に日本の仏教思想史を研究している人は少ない、という事に気がつきました。そして東アジアの大乗仏教、主に大きな思想体系が3つあると言われていますが、中観思想(空の教え)、如来藏(仏性の教え)、唯識

(仏教の認識論)、その中で東アジアの仏教において一番解明されていないのは唯識です。本当にはじめは何を言おうとしていくかさっぱり分からなかったのですが、今やらなければ自分

元受給者インタビュー 平成23(2011)年度 奨学生 ザイレ暁英師

第21回 平成23(2011)年度の受給者の1人である、アメリカ・カリフォルニア大学バークレー校博士課程在籍中で、奈良・興福寺にて外国人として史上初めて得度し学僧として今も尚研究を遂行されているザイレ暁英師にお話を伺いました。

◎聞き手・撮影=公益財団法人 仏教伝道協会 江口 郁

◎場所=法相宗大本山 興福寺



一生後悔するのではないかと、そう思いました。

そこで日本仏教の中で、唯識と言えば南都仏教、奈良時代、平安時代の日本で最も影響力のある宗派だった法相宗について博士論文が書けないかと考えました。当時は余りにも解明されていない宗派だったので、指導教官の先生方には反対されまし

たが、日本に来て日本法相唯識理論の第一人者として世界的に著名な龍谷大学の楠教授が私を指導生として受け入れます、と仰ってくださいだったので、日本の唯識思想の変遷を再現したいと考えました。海外の学者は完成された作品を探し出して、それを訓読と解釈、英訳しながら研究するのが一般的なのですが、

完成された資料が存在しない上に殆どが崩し字の文献ですのでこれらを読む訓練は全く海外では受けることが出来ず、とにかく時間がかかる作業です。

けれどもBDK Fellowshipをいただいたお陰でそのような時間的プレッシャーを余り気にせず、効率が悪過ぎて海外では敬遠されている研究や研究手法

にも手を出すことが出来る、おそらく明治以降誰も読んでいないであろう文献事項を今自分が読んでいくわけです。勿論そこに必ずおもしろいことが書いてあるとか今までと違う事が書いてあるという文献ばかりではないのですが、デジタル化された文献を使って、ある程度作り上げてから写本の研究ノートや記録などを使って段々肉付けすると非常に幅のある豊かな思想の世界が広がります。

——では現在の生活について教えてください。興福寺で得度した経緯と僧侶としての生活の中で最も苦勞した点、充実していると感じる瞬間はどのような時ですか。

初めて来日した際には龍谷大学に所属していたので、常識的に考えると京都に住むのが一番効率が良いのですが自分が研究している宗派は興福寺、薬師寺など現存していますし、敢えて京都ではなく奈良に住むことにしました。法要や儀式など自分の目で見たり耳で聞いたり直接感じたりしたかったのが桶教授の御指導の下、薬師寺、興福寺の僧侶の方がたをご紹介いただき、そうするうちに思想だけ

ではなく僧侶の生き方や法要の細かい作法などにも大変興味を持つようになりました。平成23(2011)年8月に興福寺の僧侶が修行(3週間籠もってひたすらに教を勉強し論議をする)に入る際、行に専念出来るように童子(身の回りの世話をし論議の相手役をする)が一緒に籠もるわけですが、急にその方に童子になつてくれないかと言われて……最初はそのような大役でしたのでお断りしたのですが「貴方が勉強しているのは法相の論議ですよ?毎日何時間も実際に論議が出来ますし書き方、組み方、節など全てを学ぶことが出来ますよ。」との言葉を受け思い直し、それを機に自らも得度して僧侶となることを決意したのでした。

苦勞というか、私のような外国人は伝統的な上下関係など全く知らないのです。色んな方に迷惑をかけていると思えます。そして勿論修行が肉体的に厳しいと感じる事はあります。しかし昔友人の僧侶に言われたことがあります。それは「修行に関しては好き嫌い、楽しい楽しくない、という概念は当てはまらない。それを当てはめようとすればそれは修行ではなくて

趣味になつてしまう」という事です。自分の為だけではなく一切衆生の為に修行しているの、その辺は充分意識しているつもりです。現代社会は物質的に非常に豊かですが精神的には悩みも沢山あると思います。仏教はその悩みの一つの答え、唯一の正しい答えではないかもしれませんが一つの答えにはなりません。そういう事をやはり一人でも多くの方々に理解していただき関心を持つていただきたいです。仏教と言うのはお寺でも仏像でもなくもつと自分の日常生活の役に立つような面があるという事を認識してもらおう事がこれから僧侶として非常に大きな事だと思っています。一



体どのようにすれば僧侶らしく生きられるのか、そういう自分自身への問いかけが常に必要であると感じています。

良い事は沢山あります。研究者としては、興福寺は学問寺です。自分も外国人として初めて法相教学に実際に関わったわけ色々な時代背景や歴史を分かつた上で修行するので非常に面白さがあると思います。歴史と言うのは人間なくては語れないものです。実際にその時代を生きた僧侶の生き方、考え方を少しは理解し仏教徒としても得度出来るというのは非常に希な機会であつたと。出家と言うのは家を出て家族の元を離れるという事です。僧侶になるという事でもあります。僧侶になると名前が釋(しゃく)になるのですが、それは釈迦如来の家族と言う意味です。ですから一度得度すると例えばアメリカに帰ったり他の仕事をしていても、その縁が続くその家族、そのお寺の一員と言うことです。

——そのような日本の家族との生活も残り僅かと伺っておりますが今後の展望をお聞かせ下さい。

来年の8月にUCバークレーに帰る予定です。研究成果もそれなりに上がりましたので最後は指導教官の下で細部にわたる指導を受けながら博士論文の完成を目指します。そして将来的には、仏教と言うのは宗教と言うか一つの生き方ですので、それを少しでも多くの学生に理解してもらいたいという風に思います。理想は日本の大学で職を得て僧侶を続けるという事ですが、残念ながら難しいのが現状ですので、いずれは英語圏で教職につくのが目標です。一生興福寺に残つて僧侶として生きていきたいという気持ちもありますが、それは私が決めることではなくて最終的に私が人材として何処へ行けば一番良いのかそれに尽きると思います。

以上のように力強く語つて下さったザイレ師の今後にも期待を込めつつ、今後の奨学金制度の益々の発展を望む声は後を絶ちません。平成26(2014)年度第24回分の募集は平成25(2013)年10月頃を予定しております。詳細は当協会HPをご覧ください。

海外協力機関のご紹介

アジア圏 台湾・シンガポール

北米圏 アメリカ・カナダ・ハワイ・メキシコ

南米圏 ブラジル

欧州圏 ドイツ・イギリス



台湾仏教伝道協会

昭和45（1970）年、台北市仏学研究会として設立された現在の台湾仏教伝道協会では当初（株）ミットヨの代理店である星隆貿易と建大貿易により「仏教聖典」を配布する活動が行われていました。昭和61（1986）年に台湾ミットヨが設立され、その後平成12（2000）年に台湾仏教伝道協会が発足、「仏教聖典」の頒布活動を通じて台湾国内での仏教精神・文化の普及に尽力しています。また、アジア仏教伝道協会は、昭和60（1985）年、シンガポールに設立されました。以来、東南ア

シア諸国へ「仏教聖典」の頒布活動を基軸として、より多くの方がたに仏教精神、文化を知っていただく為、松中悦夫理事を中心に活動しています。台湾仏教伝道協会では、平成24（2012）年には中国語・英語対照版「仏教聖典」を1346冊、和英対照版を204冊寄贈させていただきましたが、アジア仏教伝道協会では、特にタイでの頒布数が伸び悩み、インドネシア、ベトナムでも余り進展がみられませんので、平成25（2013）年は頒布活動に



力を入れ、更に多くの方がたに「仏教聖典」を手にとりていただく機会を作りたくと考えています。

仏教を通じて、日本と台湾の文化交流が行われていることを廖了以会長にもご理解いただき、活動を高く評価していただきました。



アジア仏教伝道協会



BDK TAIWAN

c/o Mitutoyo Taiwan Co., Ltd.
4F., No.71, Zhouzi St., Neihu Dist.,
Taipei City 114, TAIWAN (R.O.C)
Tel: +886(2)8752-3636 Fax: +886(2)8752-3267
E-mail: sharon@mitutoyo.com.tw

BDK ASIA

c/o Mitutoyo Asia Pacific Pte. Ltd.
24 Kallang Avenue, Mitutoyo Building,
Singapore, 339415, SINGAPORE
Tel: +65 6294-2211 Fax: +65 6299-6666
E-mail: bdk@mitutoyo.com.sg

そして、平成24（2012）年10月3日～5日には台湾三豊25周年展示会を開催し、600名を超える来場者がありました。会場内には仏教伝道協会のコーナーを設置、説明員を配置し映像や資料を映し出して分かり易く活動を紹介しました。開催期間中には240冊の「仏教聖典」を配布、ホテルより300冊の寄贈依頼も頂戴し、より多くの方がたに活動を身近に感じていただく良い機会となりました。

また平成24（2012）年12月3日には2年に1度開催の台湾仏教伝道協会総会が開かれました。仏教伝道協会より沼田会長らが出席され、東日本大震災直後より継続的に被災者の為の様々な支援活動を行っている事や小学生にも仏教のことを理解してもらうため漫画で仏教を紹介した本を出版する事など多岐に亘る活動内容をご紹介いただきました。総会には元内政部長で現在、亜東関係協会会長の廖了以氏にも出席を賜り、参加者は総勢110名でした。

 米国仏教伝道協会

米国仏教伝道協会は、昭和53（1978）年に設立され、主な活動として英訳大蔵経翻訳出版事業の推進、「仏教聖典」のアメリカ国内ホテル、刑務所、公共施設への寄贈などを行っています。学術的な支援としては「沼田仏教講座」を米国内主要7大学（カリフォルニア大学バークレー校、ハーバード大学、シカゴ大学、ハワイ大学、スミス大学、米

仏教のテーマに基づき構成されるこの「沼田仏教講座」を通してアメリカの仏教学研究の発展に貢献しています。また新たな試みとして「BDK無限プロジェクト」という英語及びヨーロッパ言語の仏教研究資料のデータベース化をカリフォルニア大学バークレー校の協力を得て推進しています。米国仏教伝道協会は現在ブライアン・ナガタ理事長を中心とした4名の職員によってアメリカ国内の様々な仏教寺院、研究センター

米国仏教伝道協会では、平成23（2011）年のアジア系アメリカ人ホテル経営者協会（Asian American Hotel Owners Association：平成元年（1989）年設立、約20万軒・1万名以上の会員数を誇る）加盟以来、同協会との連携を深め全米のホテル

「仏教聖典」と並び「英訳大蔵経」翻訳出版事業も一歩一歩着実に進んでおります。平成24（2012）年には維摩経義疏（Yimakyogisho, Taisho 2186）が刊行され、ハワイ大学プレス社を通じバークレー（カリフォルニア州）の書店にて一般の方々でも直接購入が可能になり、より身近に触れていただく機会が増えました。今後の刊行予定、その他詳細につきましては仏教伝道協会HPをご覧ください。



BDK AMERICA

2620 Warring Street, Berkeley, CA 94704 U.S.A.
Tel: +1(510)843-4128 Fax: +1(510)845-3409
E-mail: orders@bdkamerica.org
http://www.bdkamerica.org

等と協力し仏教精神、文化を弘めるべく活動しています。

**前駐米大使 藤崎一郎氏
ワシントン恵光寺来訪**

平成24（2012）年7月14日、駐米大使（当時）藤崎一郎氏が初めてワシントン恵光寺を訪問されました。藤崎氏は参加者800名を超えるワシントン恵光寺の盆踊りや美しい自然に囲まれた環境に大変驚かれた様子でした。藤崎氏は1960年代にワシントン州シアトルの高校に学び、その後ブラウン大学、スタンフォード大学にて学位を取得され平成20（2008）年より約4年半の任務を今年末を以て全うされました。今回は退任前にこのような機会に恵まれ、平成23（2011）年の東日本大震災の際に沢山の心温まるご支援をいただいたアメリカの皆さまに御礼の意を表され、盆踊りという催しを通じてアメリカと日本の絆を再認識する大変良い機会となりました。

出版関連事業

等の宿泊施設への「仏教聖典」寄贈活動に力を注いでいます。平成24（2012）年にはアトランタ（ジョージア州）にて2日間に亘り定例会議が開催され、開催期間中に「仏教聖典」を客室に常備したいとの依頼を多数受け、計約6000冊を寄贈しました。尚、平成25（2013）年の開催地はヒューストン（テキサス州）の予定です。



北米地区沼田仏教講座コーディネーター会議

カナダ仏教伝道協会



カナダ仏教伝道協会は、昭和62(1987)年に設立されました。近年は一般個人向け以外にもカナダ国内ホテルへの「仏教聖典」寄贈活動を推進すべく積極的にホテル業界主催の展示会などに参加、米国仏教伝道協会や地元の各仏教会とも連携をとりつつ頒布活動を行っています。

またカルガリー大学、トロント大学、マギル大学に於ける「沼田仏教講座」の開設やマクマスター大学での奨学金制度設置(BDKカナダ奨学金)への支援など、現在、本庄康雄理事を中心に幅広い活動を展開しています。

平成24(2012)年度のBDKカナダ奨学金の奨学生トリノ・ロツバン氏は日本への留学を果たし、1年間伊吹敦先生(東洋大学文学部教授、専門…中国仏教、禅)の指導の下で研究生活を送りました。

ロツバン氏は各国より仏教学を学ぶ為に集まった学生や研究者に囲まれた東洋大学での生活、また更に駒澤大学や東京大学の素晴らしい蔵書



BDK CANADA

c/o Mitutoyo Canada Inc. 2121 Meadowvale Blvd.
Mississauga, ON, CANADA L5N 5N1
Tel: +1(905)821-1261 Fax: +1(905)821-4968
E-mail: honjo@bdkcanada.com



を活用した貴重な体験を振り返り、留学でしか得られなかった充実した日々感謝していました(ロツバン氏の詳細報告は英語頁参照)。

今後もカナダ仏教伝道協会はロツバン氏のように仏教学を志し、日本への留学を希望するカナダ国籍の学生、研究者を対象に支援を続ける予定です。

🇺🇸 ハワイ仏教伝道協会

ハワイ仏教伝道協会は、昭和53（1978）年に初代理事長として約20年間ご尽力いただいたラルフ・ホンダ氏と仏教伝道協会の発願者である沼田恵範師の働きかけにより設立されました。平成21（2009）年3月からはハワイ大学名誉教授であるジョージ・タナベ理事長を迎

え、ハワイ、グアム、サイパン他にあるホテルや寺院、その他施設への「仏教聖典」寄贈を通じて地域に根ざした活動を目指しております。平成24（2012）年、「仏教聖典」の配布状況は夏の盆踊りでの配布が寺院関係では最も多かったようです。ホテルではワイキキ・ハレ・



BDK HAWAII

1757 Algaroba Street, Honolulu, HI 96826, U.S.A.

Tel: +1(808)942-1511 Fax +1(808)942-2622

E-mail: bdkshi@hotmail.com

<http://www.bdkhawaii.com/>

コアと言うアメリカ軍が運営するホテルへ多数寄贈させていただきましたが、近年ではハワイ州内のホテルへの頒布は飽和状態にあり新規の配布は大変難しく、一部のホテルでは「仏教聖典」を宗教的理由から拒否される事も多い状況です。そして設置自体をとりやめるホテルも年々増加しており非常に残念ですが平成23（2011）年には11軒の在ハワイ島ホテル、同じく11軒の在オアフ島ホテル、平成24（2012）年現在では7軒の在ハワイ島ホテル、2軒の在オアフ島ホテルより客室への常備中止の連絡をいただいている状況です。

ハワイ仏教伝道協会では、やはり各ホテルに直接アプローチすることが最も近道だと実感し、平成24（2012）年1月には約60軒のホテルに連絡し内5軒への頒布が可能となりました（約8%の配布率）。現在更に50軒のホテルに連絡を試みていくところでハワイ観光・宿泊協会の新理事長にもご協力を仰ぎ今後の新たな展開に期待を寄せております。

Amazon Kindle (アマゾン・キンドル) 版 「仏教聖典」のご案内

平成24（2012）年6月BDK Hawaiiではアマゾン（大手インター

ネット通販サイト）にて取り扱いはある既存の電子書籍版「仏教聖典」に加え、キンドル（アマゾンが製造・販売する電子書籍を閲覧するための専用端末）版「仏教聖典」（4・99米ドル）の販売を開始しました。これで日本の仏教伝道協会が販売しているiPhone版、iPad版に加え「仏教聖典」に新たな仲間が増えたこととなります。

キンドル版「仏教聖典」の制作にあたっては、まずPDFテキストからMicrosoft Word（マイクロソフト・ワード）への変換が必要になるなど、その道のりは長く遠いものでした。それでもワード化したデータをアマゾン側に提出すると同時にキンドル版が完成し、平成24（2012）年7月から9月の3ヶ月間でアメリカ国内、欧州圏だけでも約100冊を売り上げ、その規模は更に広がりをみせています。キンドル版発売にあたって広告は出していませんが、世界各国の方がアマゾンのサイトから私たちの「仏教聖典」を探し出して下さいました。

平成25（2013）年は1200を越える在米仏教系団体情報入手しましたのでそちら向けに電子メールでの宣伝を試みる予定です。科学技術の不思議…その進歩は大変有り難い限りです。

メキシコ仏教伝道協会

メキシコ仏教伝道協会は昭和60(1985)年に設立されました。現在、戸高紘一理事長をはじめとする現地人スタッフが、「仏教聖典」をホテルへ常備していただく活動を行っており、平成24(2012)年現在までにその数は19万冊を超えメキシコ全土1000軒以上のホテルへ寄贈しています。

また、「仏教精神に基づいた心の開発」と題して、幼稚園から大学までの教育機関へ出向き、「仏教聖典」を教材とし、指導にあたっています。その一例として、カトリック教会を中心に発展を遂げたメキシコ第4の都市プエブラ市の世界遺産に指定されている歴史地区に位置する私立Alva Edison大学があげられます。同校は高等学校も備えた、全校生徒約1800名、教師約80名の大学です。こちらでは全ての学生及び教師たちに「仏教聖典」を配布し、この教えを精神的支柱とし勉学に勤しむことを訓示しています。また課外活動として、先生方や学生の代表を対象とした仏教講座も行っています。先生方には、ただ単に仏教の専門知識を教えるだけでなく、学生たちが学んだ事を仏教精神に基づいてどのように活用し世の中に貢献できるか



を教え、学生たちには、身に着けた仏教精神に基づいて習得した学問を活かし、優れた社会人になつていただくことを目的としています。

そして戸高理事長が住職を務めるメキシコ恵光寺は、超宗派の単立仏教寺院として、メキシコ市を中心に活動しています。メキシコでは近年、仏教徒であることを自覚する人が増えてつあり、毎年2回の入門式や仏教儀式として、冠婚葬祭、盂蘭盆会、落慶法要、初参式、法事等を行い、また定例の法務活動として、毎週の日曜法話会、週2回のメデイーション、週2回の仏教セミナー、年6回から10回の安居合宿等を実施しています。さらには、仏の教えに目覚めた門信徒が師弟となり、剣道、杖道、空手道、棋道(囲碁)、ヨーガ、合気道等、日本の文武活動を運営しています。その他、映画を観て、その内容を仏教的視点から話し合いをする映画会や誕生会、祖先祭などその活動は多岐にわたっています。

また、その設立を支援し、メキシコ恵光寺の草木山河を表現した庭園に隣接する和風食べ処『茶えん』では、精進料理を中心とした和食や新鮮な緑茶が提供されています。日本からの駐在員の方がたの中で、日本入学校の幼稚園や小学校に通うお子様をお持ちの方がたに子供体操や絵画教室、母親の集いの場等にメキシコ恵光寺の施設を利用していただきながら、日本のおもいやりやおもてなしの精神を伝えています。



BDK MEXICO

Prolg. Eugenia No. 17, Col. Nápoles, C.P.03810

México D.F., MEXICO

Tel/Fax: +52(55)5669-1088

E-mail: bdkmexico@prodigy.net.mx



南米仏教伝道協会

南米仏教伝道協会は、昭和55（1980）年に設立されて以来、ブラジルに於ける「仏教聖典」頒布に取り組んでいます。現在事務局は水谷隆理事長をはじめ8名の職員で運営され様々な活動支援を行っています。

ブラジルという国は人種の坩堝と呼ばれるように、たくさんの人種、民族が暮らしています。まるで世界の人々の姿をここに集約したかのようでもあり、決して排他的でない国民性に温かみのある生活環境が作られています。



BDK SOUTH AMERICA

a/c Mitutoyo Sul Americana Ltda.
 Av. João Carlos da Silva Borges, 1240 CEP 04726-002,
 Cx. Postal 4255, Santo Amaro, São Paulo-SP, BRAZIL
 Tel: +55(11)5643-0006 Fax: +55(11)5641-3745
 E-mail: bdk@mitutoyo.com.br

平成24（2012）年の「仏教聖典」頒布状況はホテルへは月平均252冊、寺院へは月平均33冊でした。なお「仏教聖典」に興味を持ち、個人的に入手したいという依頼が平成23（2011）年と平成24（2012）年合わせて185件あり、その

内11%が日系人、89%が非日系人という比率でした。またブラジルは新興国の一つとして産業への投資も徐々に進み、諸外国の企業も多く進出してきています。こうした動向から英語や中国語の「仏教聖典」の常備を希望するホテルも徐々に増えてきています。

ブラジルには俗称「ベンチビー（Ben te vi）」と呼ばれる小鳥がいます。これはポルトガル語で「あなたに逢えて嬉しい」という意味になりますが、あたかもポルトガル語でそうささやいているようなので、そのように呼ばれています。

一期一会を小鳥の言葉でいえば「ベンチビー」なのかもしれません。今後このような小さな出会いを大切に南米各国での活動を推進していければと考えています。





BKD EUROPE e.V.

(EKÖ Haus der Japanischen Kultur e.V.)

Brüggener Weg 6, 40547 Düsseldorf, F.R. GERMANY

Tel: +49(211)577918-0 Fax: +49(211)577918-219

E-mail: pool@eko-hause.de

http://www.eko-haus.de

仏教聖典頒布実績	
平成23年 (2011)	個人・団体への販売・寄贈 1,018冊 ホテルへの寄贈 3,080冊
平成24年 (2012)	個人・団体への販売・寄贈 586冊 ホテルへの寄贈 7,308冊

沼田仏教講座実績	
ハンブルク大学 (ドイツ)	
期 間	平成23 (2011) 年10月～ 平成24 (2012) 年1月
講 師	フランチェスコ・スフェラ教授 (ナポリ東洋大学)
タイトル	初期カーラチャクラ派の歴史
ライデン大学 (オランダ)	
期 間	平成23 (2011) 年9月～ 平成24 (2012) 年12月
講 師	ヴァンサン・エルテンガー博士 (オーストリア科学アカデミー)
タイトル	後期インド仏教哲学の弁証範囲
ウィーン大学 (オーストリア)	
期 間	平成23 (2011) 年10月～ 平成24 (2012) 年1月
講 師	ジョン・ターバー教授 (ニューメキシコ大学)
タイトル	龍樹の『廻諍論』

くのドイツ人が日本の落語を堪能しました。

また、ホテルや仏教団体への配布、個人への販売を中心に「仏教聖典」の頒布活動を行なっています。ドイツ国内のホテルは、ドイツの高級ホテルチェーン Steigenberger 系列のホテルが主で、新規ホテル開業時には必ず寄贈させていただいています。平成23～24 (2011～12) 年は上記に加え新規でオランダ・ギリシャ・オーストリア・イタリア・チェコ・スロベニアのホテルなどからも注文をいただきました。また仏教団体にも無償で寄贈させていただきました。また仏教に使用したいとの要望が複数の学校からも寄せられ「仏教聖典」を配布、それ以外にもドイツの刑務所図書館から連絡があり、受刑者の国籍

にあわせて28言語の「仏教聖典」を寄贈させていただきました。

個人向けには、恵光センターへ来館者への販売やお問い合わせを頂いた方への有償送付が主になっています。近年、ホテルで触れた聖典の内容に感銘を受けて連絡してくる方が増えておりヨーロッパの人びとの間で仏教の関心が高まっているようです。

また、ヨーロッパ仏教伝道協会ではハンブルク大学 (ドイツ)、ライデン大学 (オランダ)、ウィーン大学 (オーストリア) の3大学に「沼田仏教講座」を開設しています。平成23 (2011) 年度はそれぞれの大学がアメリカ・イタリア・オーストリアなどから著名な仏教研究者を招聘し、公開講座や講義・仏典講読が行われました。

ヨーロッパ仏教伝道協会は、ドイツ恵光日本文化センター青山隆夫所長を中心に恵光寺・恵光日本文化センター・恵光幼稚園の運営を支援しています。恵光寺の境内には、広大な日本庭園が広がり、日本文化に関心を持つ多くのヨーロッパの方々日々訪れています。

現在、こちらでは書道・日本語・日本舞踊・いけばな・琴などの文化コースをはじめとして、月に一度日本家屋でのお茶会や日本映画上映会

なども行われています。毎年秋には庭園祭が催され、庭園に設置されたステージに於いて太鼓・日本舞踊・琴などが披露されるほか、館内ではいけばなの展覧会が開かれます。また、デュッセルドルフでは毎年春に日本デーがあります。そのイベントにあわせて平成24 (2012) 年は本堂で片野聡氏による篠笛のコンサートが開催されました。12月には落語家の三遊亭兼好氏と三味線の恩田えり氏による落語会が開かれ、多

ヨーロッパ仏教伝道協会

ヨーロッパ仏教伝道協会では、国際仏教伝道事業の一環として欧州の主要大学に「沼田仏教講座」を設置していますが、各大学の教授が中心となり、平成24（2012）年9月28日～30日の3日間に亘ってドイツ恵光センターに於いて学術シンポジウムが開催されました。このような形式のシンポジウムは、オックスフォード大学に欧州で初めて講座が設置された1990年以来初めてのことでした。今回、ブダペスト大学やライプツィヒ大学の教授も加わり、仏教学に興味のある一般の方々も数会場に集まりました。

「沼田仏教講座」 大学シンポジウム開催



冒頭で仏教伝道協会沼田智秀会長の挨拶があり、引き続きリチャード・ゴンブリッジ教授（オックスフォード大学）による基調講演が行われました。その後、ミヒヤエル・ツインマーマン教授（ハンブルク大学）、クラウス・ディーター・マテス教授（ウィーン大学）、ジョンナサン・シルク教授（ライデン大学）ら多数の仏教研究者が発表を行い、発表後は活発な質疑応答が行われました。

今回のシンポジウムでは、主に仏教における如来藏思想が中心のテーマになりましたが、討議の話題はそれにとどまらず、大変広範囲に及びました。最後の発表は仏教伝道協会の理事でもある桂紹隆教授（龍谷大学）が行い、発表



の中で「沼田仏教講座」を創設した沼田恵範師に触れ、講座の意義について説かれました。

第16回ヨーロッパ真宗会議開催

浄土真宗本願寺派大谷光淳新門ご臨席のもと、平成24（2012）年8月31日～9月2日の3日間に亘り「ヨーロッパ真宗会議」が開催されました。第16回を迎えた今回の会議のテーマは「The Importance of Saṅgha」（サンガの重要性）です。

ヨーロッパ真宗会議は、ヨーロッパの念仏者たちが2年に1度集まり浄土真宗の教えについて学びを深める場で、既に30年近くの歴史を有しています。恵光センターでの開催は平成18（2006）年以来6年ぶり



になりますが、今回の会議にはヨーロッパ各国や日本からだけでなく、アメリカやネパールからも参加者が集まり、ヨーロッパの枠を超え更に国際的な意見交換の場となりました。

初日に開催されたIASBS (International Association of Shin Buddhist Studies / 国際真宗学会) では、ケネス・タナカ会長（武蔵野大学政治経済学部教授）によるプレゼンテーションを皮切りに、5名の方が発表を行いました。それぞれの発表テーマは仏教教義から心理学、脳死の話題まで大変多岐にわたりましたが、参加者は真剣な面持ちで発表に耳を傾け、活発に質疑応答が行われました。翌日に開催されたIABC (International Association of Buddhist Culture / 国際仏教文化協会) 会議も、前日同様長時間にわたって大変白熱した議論が飛び交いました。

最終日には、本堂にて帰敬式が行われました。帰敬式とは、阿弥陀如来・親鸞聖人の御前で真宗門徒としての自覚を新たにし、お念仏を申す生活を送ることを誓う儀式です。今回、普段から恵光寺の月例修行に参加されている方がたを中心にドイツ・イギリス・ベルギー・オランダ・ルーマニア出身の13名が大谷光淳新門からおかみそりを受けられました。

英国仏教伝道協会

英国仏教伝道協会は、昭和63（1988）年にイングランド南部ハンプシャー州アンドーバーにある英国ミットヨ本社内に設立されました。設立以来、英国内のホテル、学校、



BDK U.K.

c/o Mitutoyo(UK)Ltd. Joule Road, West Point
Business Park, Andover, Hants SP10 3UX U.K.
Tel: +44 1264-353123 Fax: +44 1264-354883
E-mail: bdk@mitutoyo.co.uk

病院、刑務所等への「仏教聖典」の頒布、更にはオックスフォード大学(Balliol College)及びロンドン大学(School of Oriental & African Studies)における「沼田仏教講座」

開設支援を主な活動としております。

現在は主にガンシン・ロック顧問と片山貴司理事の二人三脚で「仏教聖典」の普及活動を行っております。

ロック顧問のご尽力のお陰もあり、平成24（2012）年度は合計1675部の「仏教聖典」を英国内にあるホテル、学校、病院、刑務所等に頒布しました。しかしながらホテルへの頒布数が年々減少傾向にある点が懸念されています。

英国内の大学における「沼田仏教



左から

Professor Richard Gombrich/ゴンブリッチ教授 (OCBS取締役)
Professor Drummond Bone/ボーン教授 (ペリオールカレッジ学長)
Professor Edmund Herzig (沼田仏教学教授 選考責任者)
Professor Chris Minkowski (サンスクリット学教授)

撮影場所：オックスフォード大学内Balliol Collegeの学長室

「学講座」の運営については、平成22（2010）年7月以降空位になっていたオックスフォード大学に於ける「沼田仏教学講座」教授に10月1日付けでステファノ・ザケッティ教授が就任されました。

またこれに先立ち、沼田会長が6月にオックスフォード大学を表敬訪問され、ロンドン大学に於ける「沼田仏教講座」も現在継続に向けての最終手続きを行っており、近日中に完了できる見込みです。

機会

なにをするにも、きつかけと言いますかチャンスがあります。

そのきつかけ・チャンスを逃すと、あとで、

どれほど地団駄（じたんだ）踏んで悔（く）やんでもどうにもなりません。

私たちは人間としてこの世に誕生しました。

人間に生まれた機会に、本当になさねばならないことはなんでしょうか、

人間に生まれたということとは、どういうきつかけ・チャンスをもらったのでしょうか。

このことを本気で考えないと、人間に生まれたチャンスを無にします。

『礼讃文（らいさんもん）』に、

人身（にんじん）受け難（がた）し、今、すでに受く。

（人間として生まれるのは難しいことだが、今すでにこうして生まれて来ている。）

仏法（ぶつぽう）聞き難し、今、すでに聞く。

（仏教の教えを聞く機会は、なかなか得難いが今すでにこうして聞いている。）

この身、今生（こんじょう）に向かって度（ど）せずんば、

（この好機を活かして、この私が現在の人生に於いて救われなければ）

さらにいずれの生（しょう）に向かってかこの身を度せん。

（一体他のどの人生に於いて救われようとするのであるのか。）

とあります。

度とは、「まよい」から「ざとり」にわたることです。

わが身を度するチャンスをいただいたのが、人間に生まれたということです。

（仏教伝道協会 会長 沼田智秀 著『ささえあって』―百八つのおもい―より）

ささえあって